

Sal'ence まがえんす

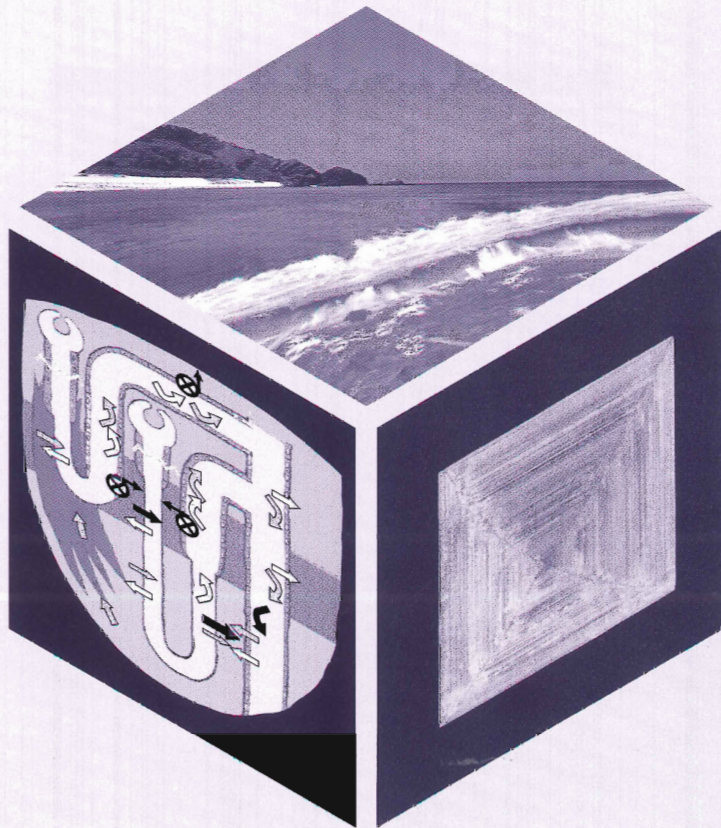
3

MAR. 2009 No.80

長生きと健康寿命 藤巻正生

伊能忠敬の「大日本沿海輿地全圖」 村上正祥

児玉総督、台湾布袋塩田を視察する 太田健一



目次

巻頭言 長生きと健康寿命 1

藤巻 正生

伊能忠敬の「大日本沿海輿地全圖」 2

村上 正祥

兎玉総督、台湾布袋塩田を視察する 12

太田 健一

第43回評議員会・第47回理事会を開催 18

財団だより 23

編集後記



藤巻 正生

東京大学・お茶の水女子大学
名誉教授

長生きと健康寿命

人生50年だった日本人は今や80年時代の人となり、100歳以上の高齢の方々は1963年には僅か153人でしたが、現在3万人を超えています。日本人の平均寿命を見ますと、大正10～14年(1921～25年)では男性42.1歳、女性43.2歳でしたが、昭和22年(1947年)に男性50.1歳、女性54.0歳と先進国中最低でした。それが1980年代から世界一の長寿国となり、最新の厚生労働省平成19年簡易生命表によりますと、日本人の平均寿命は男性79.19歳、女性85.99歳と世界の最長レベルを維持しています。このように世界一の長寿国になれたのは、脳卒中発症の大幅減、病原体に対する抵抗力の増大をはじめ、医療技術の進歩、衛生面の改善とともに食生活、栄養の向上(とくに動物性たんぱく質の摂取増)が挙げられましょう。しかし、寿命が延びただけでよいのか、どのくらい健康で生き、少しでも社会のお役に立つ方が大事ではないかということから健康寿命という新しい指標が提唱され、2000年6月にはWHO(世界保健機関)が初めて健康度を示す指標として191全加盟国の健康寿命を公表しました。

健康寿命とは「健やかに過ごせる人生の長さ」とか「日常生活を自立して暮らせる期間」などと一般に考えられています。WHOが公表したデータによりますと、日本人の平均寿命は男

性77.6歳、女性84.3歳、また健康寿命は男性71.9歳、女性77.2歳でいずれも世界最長でした。したがって日本人の不健康期間は男性5.7年(短い方から19位)女性7.1年(28位)となります。ちなみに男女平均の健康寿命は1位日本(74.5歳)、2位オーストラリア(73.2歳)、3位フランス(73.1歳)の順でアメリカは70.0歳で24位となっています。

健康寿命を延ばすためには食生活の改善を心掛けることが大切で、高田明和先生によりますと、カロリーを制限した方が長生きするというデータはヒトについては全く無いそうですし、「うつ」を防ぐセロトニンを増やすポイントは肉類をよく食べ、陽のあたる場所で運動し、息をゆっくり吐く呼吸をすることと説かれています。ヒトの脳の大きさ(1350ccくらい)は体重の2%くらいですが、なんと約24%ものカロリーを必要として使っていますので脳の栄養が減ると全身から栄養を奪ってそのため抹消の機能が不全になるのだそうです。国立がんセンター研究所の調査では、死亡の危険率は肥満度を表すBMI(体重を身長²で割った数値)が23～25未満でもっとも低く、19、20といった正常値の範囲でも体重の軽い人は死亡率が高いという結果が得られています。

血清アルブミン値は高齢者の栄養状態のよい指標といわれ、その値(g/0.1ℓ)が4～5は栄養状態良好、3.5を切ると生存率が低くなり、逆に食肉摂取頻度を増すとアルブミン値は増して長寿につながるという結果もあります。

東京都老人総合研究所の「元気で長生きの11か条」の第1条は血液のアルブミン(たんぱく質)が多いことと示されています。

減塩食を無理強いしてますます食事の楽しさを忘却させてしまうより老若を問わず、食塩を上手にとって*元気澁刺健康寿命を延ばして人生を送りたいものです。

参考

財団法人 日本食肉消費総合センター
Health & Meat '08

*菱田 明：そるえんす, No.79, P18(2008)
財団法人ソルト・サイエンス研究財団



伊能忠敬の「大日本沿海輿地全圖」

村上 正祥

元日本専売公社塩技術担当
調査役

今から二百年も前の頃、日本の全土を測量して廻り、日本地図を制作した男の物語である。

1. 伊能忠敬¹⁾

1) 伊能忠敬の略歴

延享2(1745) 上総・山辺郡小関村に生れる。幼名、三治郎

宝暦5(1755) 母の死で、父の実家、横芝小堤村の神保家に引取られ、そこで成長

宝暦12(1762) 林大学頭²⁾の昌平坂聖堂に入門

同年、佐原の伊能家に婿入りし、忠敬と改名
(通称は三郎右衛門)

忠敬は家業の酒造業と米穀取引に精励し、明和3(1766)の凶作には、私財を投じて窮民を救済し、本宿組名主を勤めた。

天明3(1783) 利根川洪水後の堤防修築に奔走し、天明6(1786)の「天明飢饉」には、難民の救済につくし、米穀を安売した。
これらの功績で、地頭の津田氏から苗字帯刀を免れた。

寛政6(1794) 家督を長男の景敬に譲って隠居

寛政7(1795) 妻の死後、江戸深川黒江町に転居。天文方、高橋至時²⁾の弟子となり、天文観測、測地測量を学んだ。

この時、忠敬は50歳、師の高橋至時は31歳の若さであった。

天文観測は暦法の基本であり、緯度・経度の計測は測地測量の原点である。この測地測量を「規矩術」と称したが、現代の「三角測量法」である。

2) 全日本の沿海地測量

伊能忠敬が目指したのは、全国の海岸線を即地測量して回り、全日本の地図製作である。彼

は、測量器材の調達、内弟子の養成を進め、寛政12年(1800)蝦夷地・奥羽街道測量が始まった。

伊能忠敬の測量と地図作成(年譜)…(図-1 参照)

寛政12	(1800)	第1次	(蝦夷地南東海岸線・奥州街道)測量 測量途中に、間宮林蔵と蝦夷地で出会う。
享和元	(1801)	第2次	(伊豆～陸奥太平洋沿岸・奥州街道)
享和2	(1802)	第3次	(陸奥～越後海岸線・越後街道) その結果として、「緯度1度の長さを28.2里」と算出
享和3	(1803)	第4次	(駿河～尾張～越前～越後海岸線・街道)
文化元	(1804)		「日本東半部沿海地図」を將軍家斎の上呈
文化2～3	(1805～6)	第5次	(瀬戸内海～山陰地方海岸線・島)
文化4	(1807)		畿内、中国地方などの地図を作成して幕府に上呈
文化5～6	(1808～9)	第6次	(四国・淡路島海岸線～大和・伊勢街道)
文化6	(1809)		四国地方などの地図を作成して幕府に上呈
文化6～8	(1809～11)	第7次	(九州東南部海岸線～中国・中部内陸部)
文化8～11	(1811～14)	第8次	(九州南部・北西部海岸線・島 ～中国・近畿・中部内陸部)
文化12～13	(1815～16)	第9次	(伊豆諸島)…本人は参加せず
文化12～13	(1815～16)	第10次	(江戸府内)
文化13	(1816)		「大日本沿海輿地全図」の制作を手がけ始める。
文政元	(1818)		5月17日、江戸・八丁堀の自宅で亡くなる(享年73歳)
文政4	(1821)		「大日本沿海輿地全図」、「輿地実測録」完成 上呈される。(この時、忠敬の死去を公表)

※ 5次以降は「幕府御用」



図-1 伊能忠敬の測地測量行程

2. 間宮林蔵²⁾

安永4(1775)年、常陸の農家の子として生まれたが、非凡な算術の才能を幕吏に認められ江戸に出た。寛政12(1800)年、普請役村上島之丞に随行して蝦夷・函館へ渡り、伊能忠敬の東南岸測量に同行して、測量術を学んだ。

その後、彼は西蝦夷沿岸、北部沿岸と測量して周り、その成果・資料を江戸の伊能忠敬に届けた。(伊能の「蝦夷地沿海実測図」)

文化5(1808)年には、松田伝十郎と共に、北蝦夷(樺太)に渡り、その地を巡見(測地)。翌年には、北西岸を調査の後、現地人に同行して大陸側のデレンを訪れ周辺諸民族の清国への朝貢の実態を見た。(その成果は『東韃地方紀行』、『北夷分界余話』に著された。)

また、アムール、リーマンの両岸を含む「樺太地図」³⁾を作成した。高橋景保を通じて、この地図を入手したシーボルトは、この海峡を「間宮の瀬戸」を名付けた。

(図-2 参照)

3. 久米栄左衛門(通賢)^{3) 4)}

安永9(1780)年、讃岐・引田郷馬宿村の船舵作り職人の子として生まれる。諱名は通賢。

7歳で時計の分解修理をして、その才覚をあらわす。19歳の頃、大坂に出て関重富(はざま)に暦学および天文を学ぶ。測量器を製作し、また観測技術を習得した。享和2(1802)年春、父喜兵衛の死をきっかけに帰郷。文化3(1806)年、高松藩御用測量方として採用された。その年の十一月十四日から高松藩領の実地測量に着手した。

十余人の助手を引連れた通賢の測量隊は、引田浦から、高松藩領の西端まで37里に及ぶ海

岸線を実測し、そこから内陸部を東へとって返し坂本村まで測量して、讃岐国の実測地図を完成させた。

文化5(1808)年、伊能忠敬の測量隊は、阿波、土佐、伊予と進み、讃岐に至った。これを出迎えたのが久米通賢。その測量隊の案内役を務め、測量の一部を担当した。

4. 「大日本沿海輿地全図」

文政4年(1821)、「大日本沿海輿地全図」と「大日本沿海実測録」14巻が完成し、幕府天文方高橋景保の序文と共に、幕閣に上呈された。

日本の全域が、大図214枚に描かれ、これを中図(縮尺、21.6万分の1)8枚に集約し、さらに、小図(縮尺、43.2万分の1)3枚に仕上げた。

『伊能図』¹⁾は、中図の原寸大複製を中心とした労作である。

1) 小図 …(図-3 参照)

- (1)「本州東部」
- (2)「日本西南部」
- (3)「蝦夷地沿海」

2) 中図…『伊能図』¹⁾

「中図」は、距離1里を1寸に刻んで描かれている(※縮尺1/21.6万)。

「中図」は山野・海域を彩色された絵地図であり、実測された海岸部の形状は克明に書込まれている。海岸の浜砂面は淡い黄色、築造された塩浜は黄赤色で描かれている。

図-4は播磨の沿岸部である。明確に描かれた海岸線、沖の島々、山陽道、河川等、見事なものである。また、海岸線、街道沿いの村名も抜かりなく書込まれている。

図-5は周防・長門の沿岸部。

四面堤防の三田尻大浜が書き込まれている。

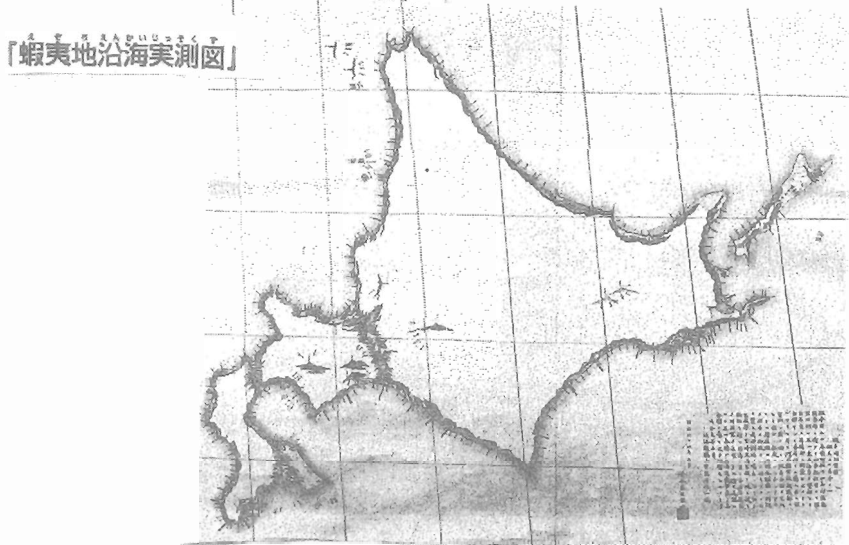
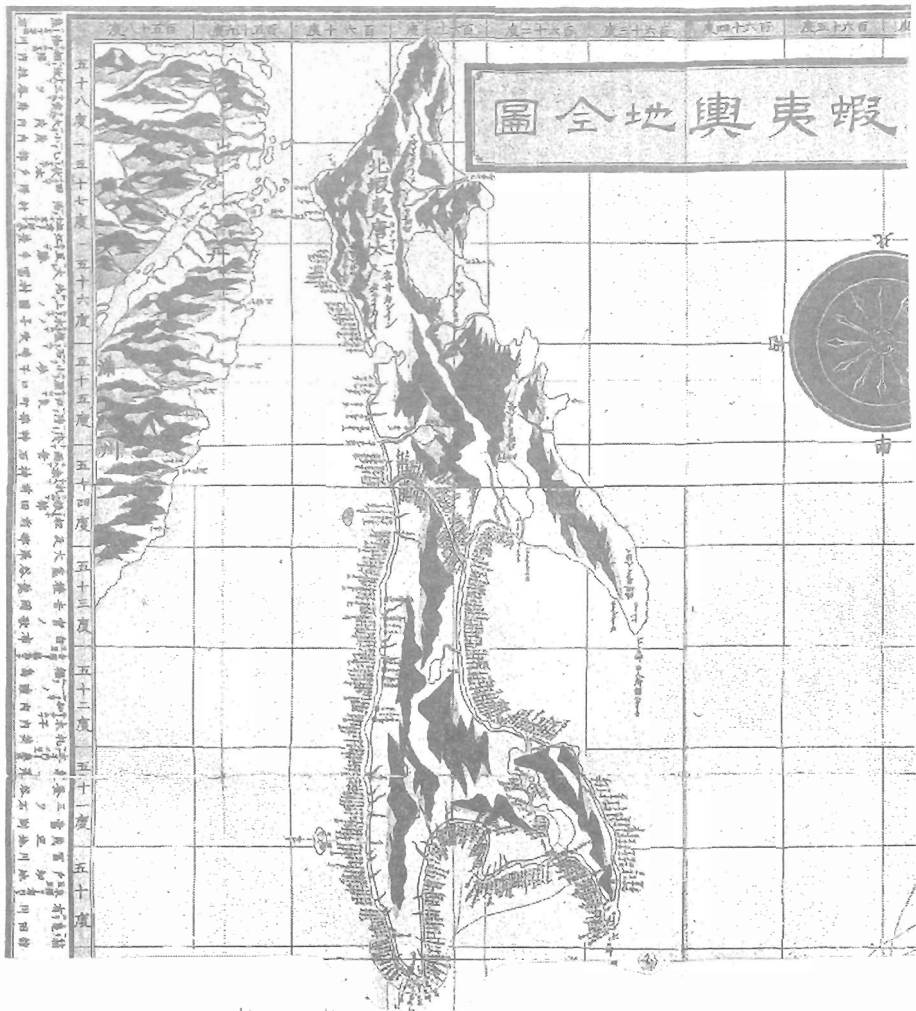
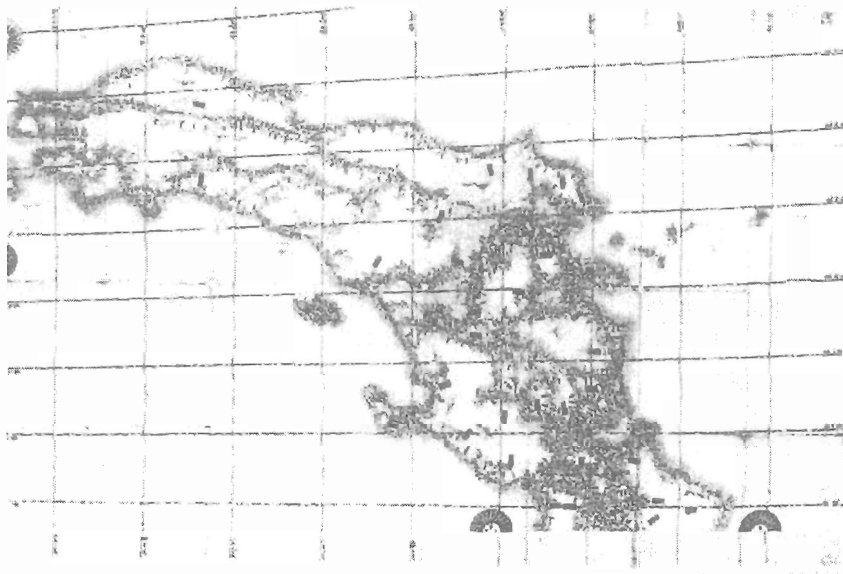
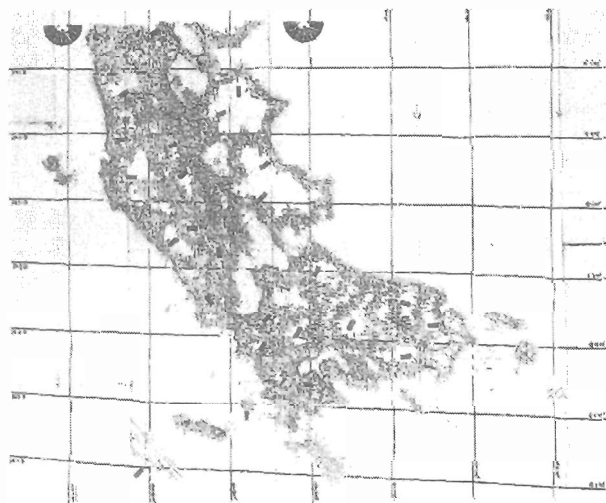


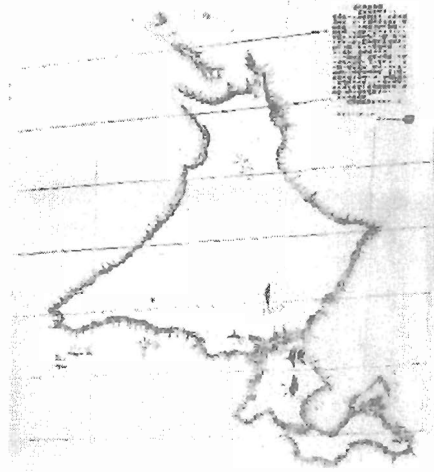
図-2 間宮林蔵の蝦夷地図¹⁾³⁾



(1)「本州東部」



(2)「本州西南部」



(3)「蝦夷地沿海実測図」

図一3 小図、最終版

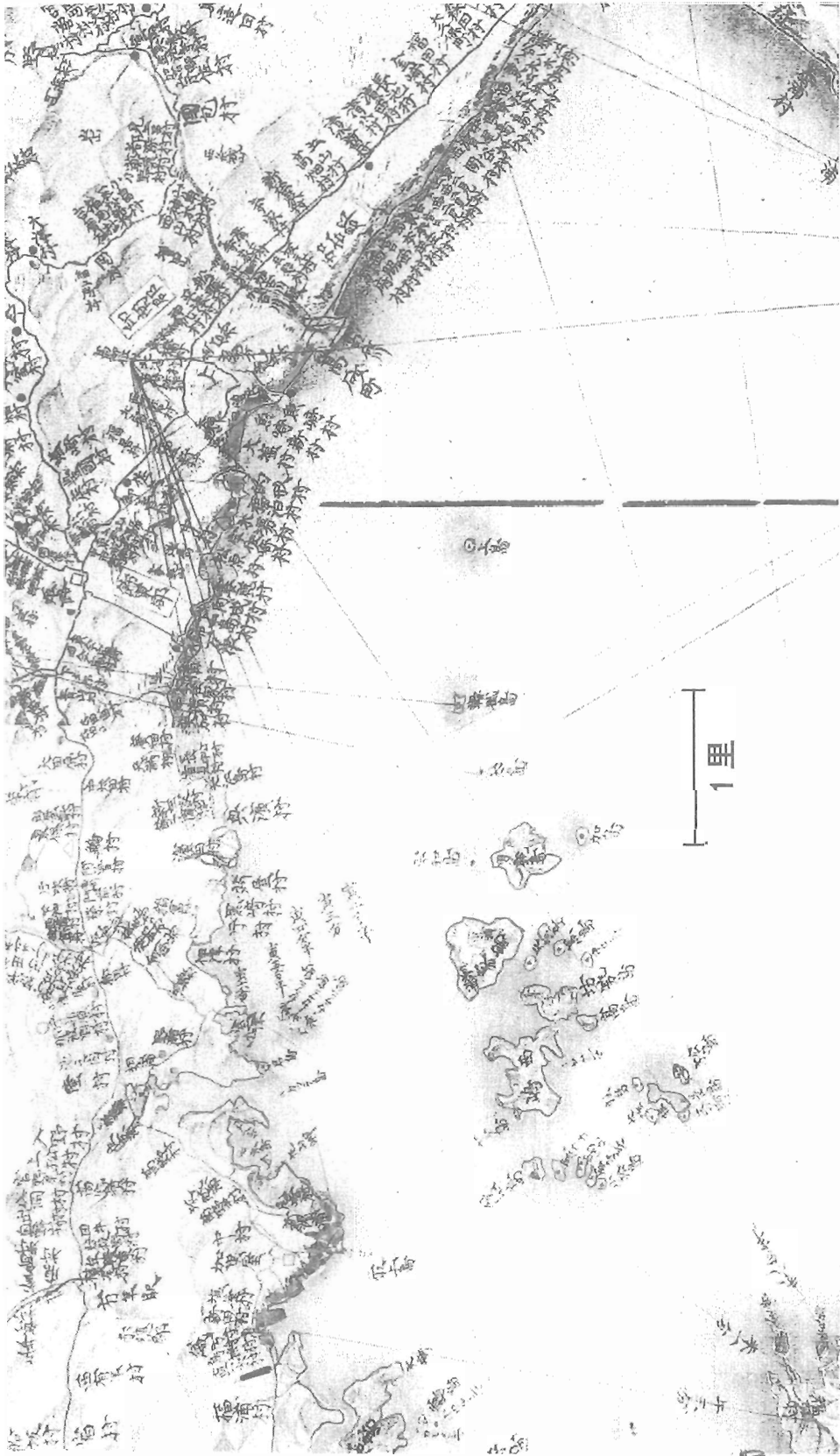


图-4 播磨

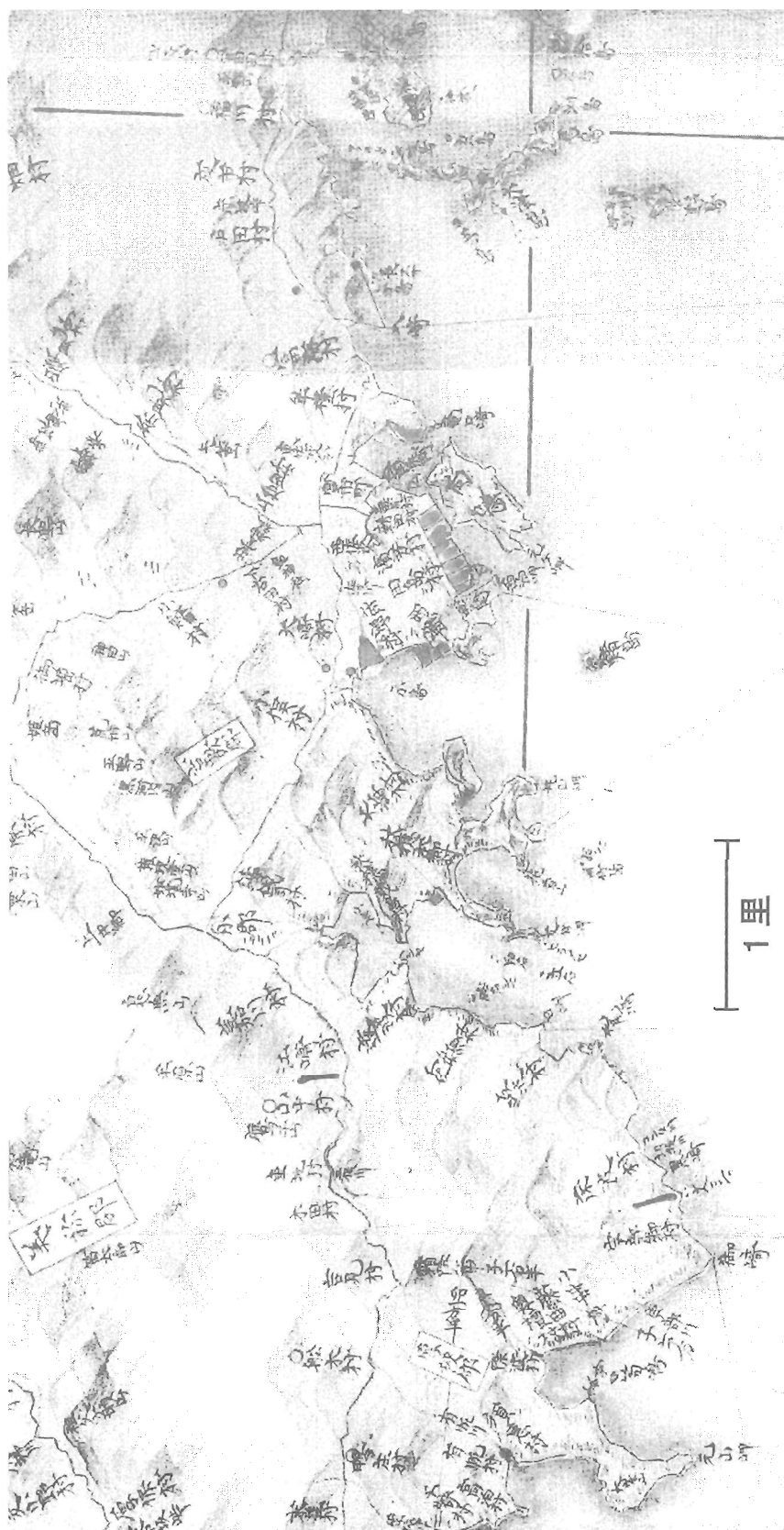


圖-5 周防・長門

5. 久米通賢の坂出大浜開発

高松藩では九代松平頼恕が襲封した文政初年ごろ天災が相次ぎ、領民は飢え藩財政は危機に直面していた。その財政再建策として文政7年(1824)久米通賢は、次の建議書を提出した。

(1) 他国からの移入品を制限し、讃岐の国産品愛用を奨励すると共に、向こう五年間諸事節約を厳しく申渡すこと。

(2) この五年間、藩の御用係の人員を三分の一、削減し、人件費を節減する。

(3) 製糖業の統制と、坂出大浜の開発。

在来の塩浜開作は、脊後地の松葉・薪量に制約された。これが石炭焚塩竈となれば、いかなる大型塩浜も可能となる。彼は坂出浦の広大な干潟に大塩浜を開作し、石炭焚きの大型塩浜を開築することを提案した。

高松藩は、文政9年3月11日付で、坂出塩浜築造を許可し、通賢を普請奉行に任命した。

文政12年(1829)8月、坂出大浜が完成した。

塩浜 115町6反、釜屋 70軒
総面積 131町7反

讃岐の塩浜開設

坂出大浜の成果に習って、屋島・渦元浜(開

設・1836)、直島・御恵浜(1837)、与島浜・本島浜(1840)、三豊郡詫間浜(1843) …と、塩浜開設が続き、讃岐は塩浜大国となった。

(図-6 参照)

6. 備前・児島の塩浜開発

文政9年(1826)3月、坂出大浜の開作工事が始まり、これに続いて対岸の備前・児島で塩浜開発が始まった。

児島・味野村の^{こやの}昆陽野武左衛門(家業は足袋造り)は、坂出大浜に習って、味野村と赤崎に跨がる大浜の開作に乗出した。文政10年(1827)塩浜開作工事を始め、文政12年(1829)野崎浜※(48町歩)が完成した。(※ 新浜の名称は、味野の野と、赤崎の崎をとり、野崎浜と命名された) 野崎浜を完成した武左衛門は、苗字を「野崎」と改めた。

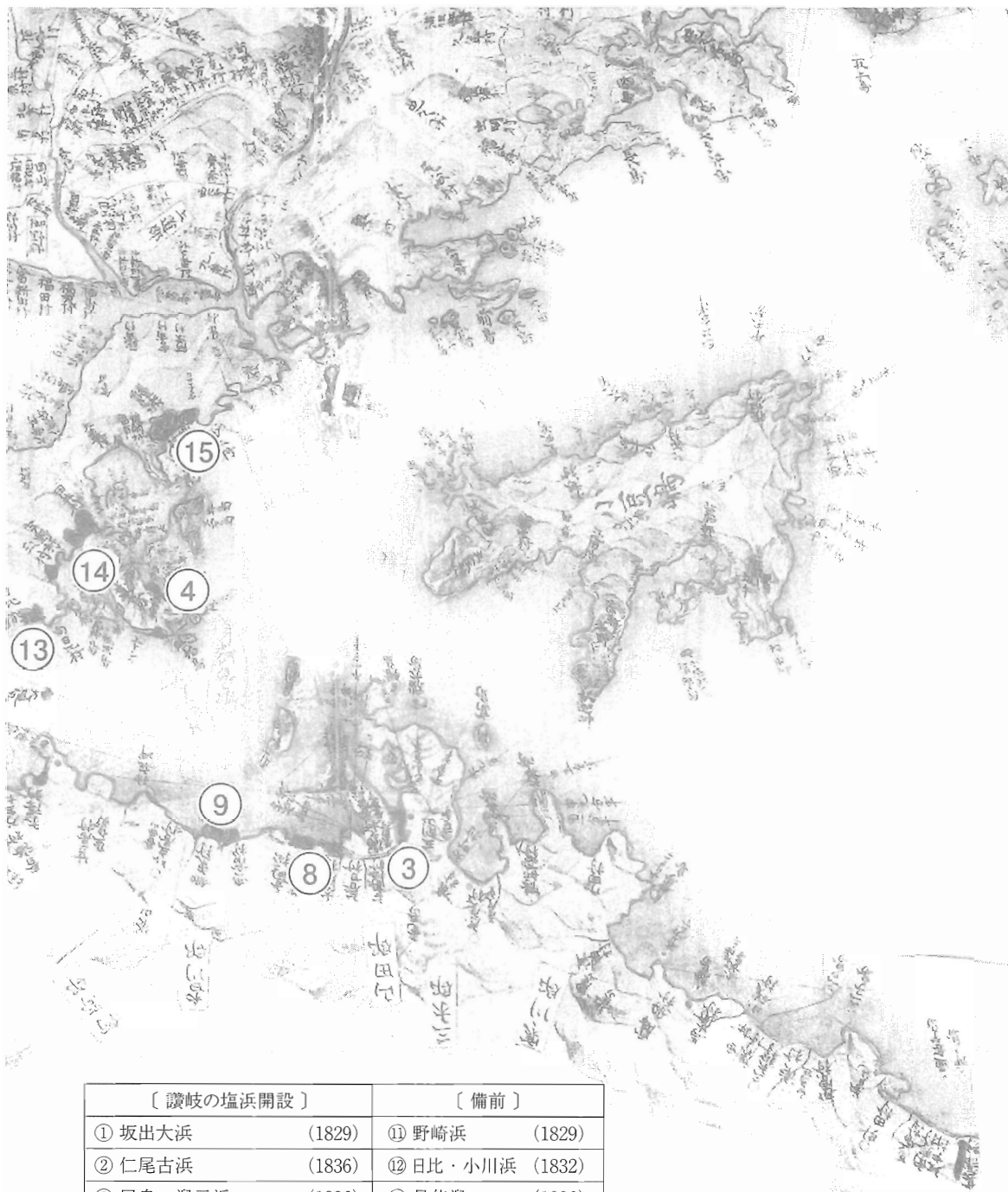
この野崎浜の成果に習って、児島の沿岸では日比・小川浜、見能湯、田井広潟と塩浜開作が続き、天保12年(1841)には東野崎浜(73町歩)が完成した。野崎武左衛門はその功により大庄屋役、苗字帯刀御免、五人扶持を受けた。

〔参考文献・資料〕

- 1) 『伊能図』武揚堂(2002)初版
- 2) 『日本・歴史人物事典』朝日新聞社(1994)
- 3) 『地図でよむ江戸時代』山下和正著 柏書房(1998)
- 4) 『三百藩家臣人名事典』6巻、高松藩 新人物往来社(1989)



図-6 讃岐・備前



〔讃岐の塩浜開設〕		〔備前〕	
① 坂出大浜	(1829)	⑪ 野崎浜	(1829)
② 仁尾古浜	(1836)	⑫ 日比・小川浜	(1832)
③ 屋島・渦元浜	(1836)	⑬ 見能渦	(1836)
④ 直島・御恵浜	(1837)	⑭ 田井・広渦	(1840)
⑤ 与島浜・本島浜	(1840)	⑮ 東野崎浜	(1841)
⑥ 三豊郡詫間浜	(1843)		
⑦ 坂出・濠井浜	(1865)		
⑧ 高松・新浜	(1866)		
⑨ 宮脇・久通浜・弦打浜	(1877)		
⑩ 宇多津・陸杵	(1886)		



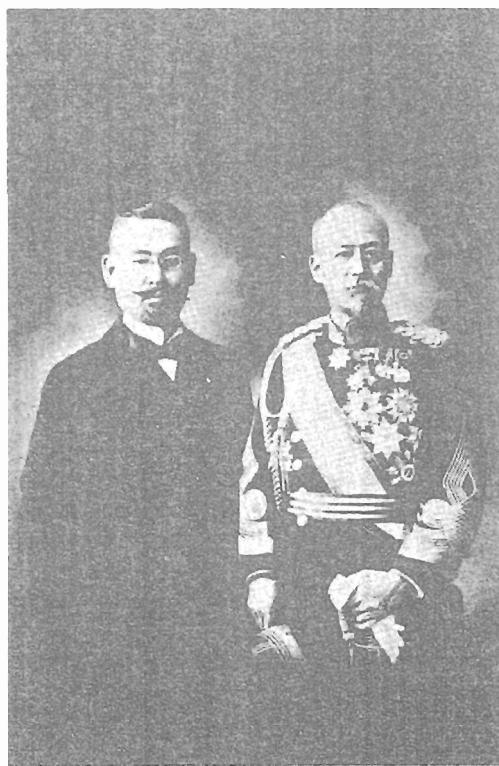
児玉総督、 台湾布袋塩田を視察する

太田 健一

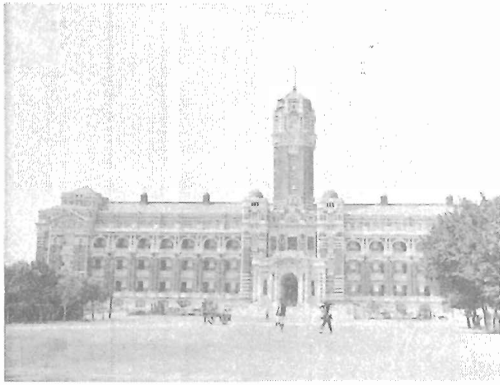
日本塩業研究会代表

児玉総督とは、台湾総督を明治31年(1898)から同39年(1906)までつとめた第4代の児玉源太郎のことである。台湾は日清戦争の結果、日本に割譲され、その統治機構として明治28年6月、台湾総督府は台北に治政式をあげた。初代総督樺山資紀(海軍大将)のあと、桂太郎(陸軍中将)・乃木希典(陸軍中将)が2代・3代総督に就任するが、漢族系住民の激しい抵抗にあつて平和な治安を確立することができなかった。

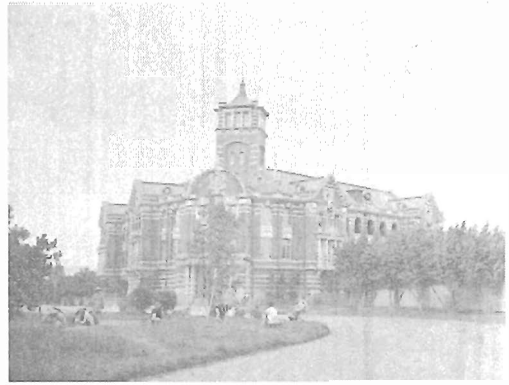
このため、山地を除く平地・丘陵地の漢族居住地域に治安を確立する課題は、第4代総督児玉源太郎と、彼の許で民政長官に就任した後藤新平に課せられることとなった。2人のコンビによって、土地調査事業が進められ、それと平行してアヘン(1896年)・食塩(1899年)・樟脳(1899年)・煙草(1905年)・酒(1922年)の専売制が実施され、総督府財政の確立がはかられていく。



写真一 児玉総督(向って右)と後藤長官(明治35年撮影、児玉中将51歳)―加登川幸太郎『名将、児玉源太郎』より転載―



写真一2 台湾総督府(大正期、野崎勝輝撮影)



写真一3 台湾専売局(大正期、野崎勝輝撮影)

◇ ◇ ◇
 明治32年5月台湾塩専売制が実施されて間もなく、岡山県の製塩家で貴族院議員でもあった野崎武吉郎は、総務部長小西増太郎を台湾に派遣し(9月)、台南府の塩業地を踏査させ約961町歩の干潮露出地の開墾許可を得た(12月)。その内、塩田開拓に最適と思われた布袋嘴庄にしほって開墾を進め、先ず第1期工事として第5・6・7区(合計91町歩)を明治36年4月に完成させ、第2期工事として第8区(93町歩)を大正10年9月に完成させた。

この間、明治33年(1900)1月に布袋嘴に出張所を開設し(支配人 小西増太郎、現地主事 中村雄助)、同年5月には現地有力者の意見を参

考にして定めた「野崎台湾塩行」の開所式をおこなった。



写真一4 野崎台湾塩行の外容(大正期、野崎勝輝撮影)



図一1 布袋の位置(昭和14年の地図)

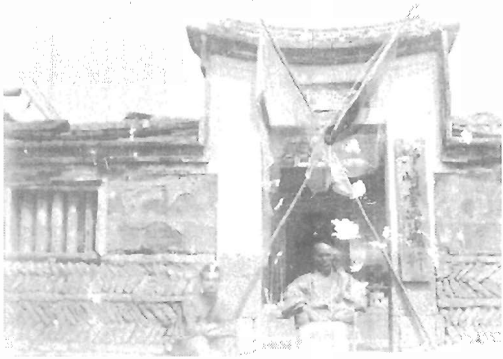


図一 野崎家の所有する布袋塩田(第5・6・7・8区)

- 注(1) 第1・2・3・4区は台湾人の所有塩田
- (2) 野崎塩行事務所は第8区の北方の市街地に存在
- (3) 専売支局は第2区の東側に存在する



写真一 野崎台湾塩行の内部
(大正期、野崎勝輝撮影)



写真二 野崎台湾塩行の玄関(明治34年頃)



写真三 野崎台湾塩行の職員(明治34年頃)

注 前列は日本人職員、後列は現地人 前列左から3番目が主事 中村雄助、後列左から3番目が台湾人技師 蔡碯



明治35年6月に入り、児玉「総督閣下御南延ニ付、特ニ避遠の海浜、当布袋嘴まで御巡視相成」る通知が野崎塩行にもたらされた。

塩行職員一同は、この巡視が「全く野崎塩行塩田視察之御主旨の外ならずと深く感泣」して受け止め、主事の中村雄助はその準備に奔走することとなった。

当初の予定では、横沢秘書官の連絡によると、「総督閣下ニハ、来ル十三日嘉義出發、貴地ニ一日滞在、一行ハ高等官十名、判任官十名、従者三名、宿舍等準備出来候や返待つ」というものであった。中村主事は直ちに警察と協力して、宿割を計画すると共に街路修繕と塩行事務所内の清潔法施行をおこなった。

次第に期日が近付いた7月11日、横沢秘書官より打電が入り、1日予定を早めて、12日嘉義出發、布袋には13日に滞在し、翌14日布袋を出發する変更案が届いた。中村主事は手順を1日早めるべく準備を完了し、横沢秘書官宛に「十二日当地御着之旨敬承す」と打電したが、しばらくして岡田嘉義庁長より次のような來電が入った。

総督閣下ニハ午前六時当地御出發、貴地ニ向ハる事ニ変更せらる、饗応宴会物品寄贈等一切謝絶せらる

電文をみた中村主事は「折角夕食の用意をして準備し來候支那料理も御請け無之」と落胆したが、夕方になって岡田庁長より「高等官七名、判任官五名、明日夕食より頼む」との打電があり、多少安堵するところがあった。

さて、7月12日を迎えた。総督一行は朴子脚経由で午後5時に布袋に到着し、直ちに野崎塩行事務所に入った。

当日は「近頃ななき酷熱」であった。直ちに塩行内の予定宿舎に総督を案内したが、「人の往来断ち難く、少しく五月繩と云ふ御気分」であったため、別の「西端の宿舎ニ移転」をねがった。入浴していただいた後、「布袋嘴一円塩田の大図面」を供覧し、総督の諮問に対して中村主事が要領よく説明をしていった。

時刻が7時半を回ったところで夕食をむかえ

た。事務所で一同揃っての会食が予定されていたが、総督は秘書官を通じて「大ニ厚意を謝せられ」たが、「御疲労の故を以て御臨席無之」きこととなった。このため、総督の晩食は連行してきた炊事係りがこしらえ、事務所では中村主事が接待役となって高等官1行を、また判任官1行は塩局(専売支局)で萩原専売支局長が接待役となって饗応がおこなわれた。

翌日(7月13日)、正午より総督は専売支局長官舎に宿舎を移し、午後3時より布袋塩田を巡視し、午後5時には宿舎に帰った。この時、総督は「第1区・2区を御巡視相成り…目下築立中の大堤防(注・第6区)を眺め、工事ハ随分盛大なり」と中村主事に談話された。5時に帰舎後、総督より50円の酒肴料が下賜され、一同は有難く頂戴して直ちに台南慈恵院に寄付する措置をとった。

翌14日午前7時、総督一行は布袋嘴を出發し、中村主事は新宮庄停車場まで一行を見送ったが、この時、中村主事は横沢秘書官宛に次のような詫状を呈上し、総督への言上を懇願した。

拜啓 総督閣下御始遠路之処御巡視被下、庄民一同と共ニ無上の幸榮不勝感泣候、然る処、弊行ハ諸事設備不行届にて誠ニ謝罪之申上様も無御座、今更恐縮千万ニ奉存候、雄助欠礼の罪、野崎よりも代りて御詫申上候義とハ被存候得共、猶貴下よりも閣下へ言上被降候て、御宥恕を賜らハ終生の仕合ニ御座候

御手厚き御下賜金難有奉拝受候、別紙領収証御査収被下度候

先ハ右御願を兼ネ 敬具

七月十六日 中村雄助

横沢秘書官殿

これと同時に、野崎家当主武吉郎に対しても中村主事は以下のような報告をおこなった。

今更、総督折角の御巡視ニ就而ハ、誠ニ不行届の点決して免かれ得へき事ニ無之、手不揃の故から諸事一行へ対しても手廻り兼ネ、何とも遺憾千万後悔致候、併し料理等ハ支那料理・日本料理とも塩水港より特ニ雇入れ、出来得る丈の準備致し、宿舎も総督閣下分ハ寢具・風呂其

他御用品ハ別詔ヘニ致置候、総督閣下幸ニ小生の不行届の罪を恕して、誠意歓迎せしを諒せらるゝを得バ無上の幸福ニ候得共、何卒御主人様より親しく総督閣下へ御書状御詫被下候事ハ相叶間敷哉、御願申上候、此回歓迎ニ就き経費ハ総計四百八拾円余りに上り申候、計算ハ追而御送附可申上候

◇ ◇ ◇

こうして、明治35年7月12日午後5時より7月14日午前7時に至る児玉総督の野崎塩行及び布袋塩田の視察は終了した。

野崎塩行に宿泊した一行は、高橋土木技師をはじめとして多くの随行員は「深く厚意を謝せられ」たが、唯1人、横沢秘書官は「野崎ニ於て弍千円位の設備を投するも何かあらん、閣下ハ国家樑石の臣である」と中村主事に「怨鳴」ったという。

この時の心境を中村雄助主事は次のように語っている。

設備の不行届ニして斯る狭隘の宿舍を閣下の御宿ニ充てたるハ、固より不敬の罪免かれ様も無之、只タ唯々として恐縮する外なかりし



写真—8 布袋塩田風景(大正期、野崎勝輝撮影)

◇ ◇ ◇

児玉総督に続き、後藤新平民政長官の野崎塩田の視察は明治36年3月24・25日におこなわれた。

一行は長官をはじめ、清水技師、塩水港庁長、嘉義庁長、その他属官3名の計7名であった。

長官は専売支局へ、その他6名は塩行事務所に宿泊した。翌25日午前6時より野崎塩田の第5・6区を巡視し、随行した塩行員景山長治郎に対して、塩田の堤防、塩田の構造、塩田の事業等について質問が投げかけられた。終りに後藤長官より「野崎塩行も基礎確立可賀ノ至リ」との言葉があり、第5・6区視察後直ちに竹筏に乗って虎尾寮を経て北門嶼に向かった。

後藤長官の巡視を報告した景山は、児玉・後藤のコンビで遂行されていく新体制づくりについて総支配人小西増太郎に次のように報告している。

先般より布袋嘴市街道路拡張実行セラレ、道路幅総而三間半トシ、警官出場ドシドシ倒屋致サセ居候、布袋嘴旧況一変致し申候、随分中ニハ貧者ニシテ倒屋セラレ可憐々々



写真—9 竹筏の光景(大正期、野崎勝輝撮影)

以上みてきたように、総督と民政長官の巡視は無事に終わった。この巡見によって、トップ2人に台湾製塩事業の現実を認識させ、野崎家の所有する台湾布袋塩田に対する種々の補助金も円滑に進行していったものと思われる。なお、野崎武吉郎の児玉総督宛の書状については、目下のところ不詳である。

註記

(1)文中依拠した史料は野崎家文書「台湾塩行来書」(第1号、明治34年より明治38年に至る)である。

(2)文中使用した写真は、大正7年より大正10年にかけて渡台し、野崎台湾塩行支配人をつとめた野崎勝輝氏が撮影されたものである。渡台日記とアルバムは野崎家塩業歴史館が収蔵している。

(3)資料の閲覧・利用を御快諾賜った(財)竜王会館理事長野崎泰彦氏に厚く御礼申し上げますと共に、御協力いただいた野崎家塩業歴史館の各位に対し心より謝意を表する次第である。

第43回評議員会・第47回理事会を開催

去る3月13日(金)、当財団の第43回評議員会並びに第47回理事会が、東京都千代田区・KKRホテル東京において開催されました。

評議員会では、平成21年度事業計画案、同収支予算案が審議されるとともに、新公益法人への移行に向けた手続の審議が行われました。

理事会では、任期満了に伴う評議員(11名の再任と1名の新任)の選出について提案が行われ、全員一致をもって決議されました。続いて、平成21年度事業計画案、同収支予算案、新公益法人への移行に向けた手続について審議が行われ、原案どおり承認されました。



第43回評議員会



第47回理事会

平成21年度事業計画

1. 塩及び海水に関する科学的調査研究の助成
21年度は一般公募研究21件、プロジェクト研究3テーマ・16件、財団設立20周年記念助成4件に総額5000万円の助成を行ないます。
2. 情報誌等の編集・発行
3. 情報の収集及び調査研究事業
4. 研究会、講演会、シンポジウムの開催・後援
5. 国際塩シンポジウムへの協力
6. 広報活動の充実
7. 関係学会等との関係強化
8. 効率的業務遂行体制の構築等

評 議 員

任期：平成21年4月1日～平成23年4月1日

平成21年4月1日現在

秋 田 太真樹	鳴門塩業株式会社代表取締役社長
荒 井 綜 一	東京農業大学総合研究所客員教授
植 岡 佳 樹	株式会社日本海水代表取締役会長
沖 仁	日本塩回送株式会社相談役
熊 谷 博	日本食塩製造株式会社代表取締役社長
関 口 悦 藏	全日本塩販売協会会長
津 田 健	東京工業大学ものづくり教育研究支援センター特任教授
中之森 利 雄	財団法人塩事業センター副理事長
能 間 博 司	ダイヤソルト株式会社代表取締役社長
宮 澤 啓 祐	塩元売協同組合副理事長
村 上 正 樹	日本ソーダ工業会専務理事
* 森 高 初 恵	昭和女子大学大学院生活機構研究科教授

(五十音順)

(注) *印の候補者は、新任(平成21年4月1日)の方です。

平成21年度助成研究を決定

— 41件を採択 —

去る2月27日(金)に東京都千代田区・KKRホテル東京で開催された第42回研究運営審議会において平成21年度の助成研究について選考が行われ、この結果に基づき前述の評議員会及び理事会において、一般公募研究21件、プロジェクト研究3テーマ・16件、財団設立20周年記念助成4件の合計41件が決定されました。研究分野別助成費及び助成研究一覧は次の通り。

平成21年度研究分野別助成費

	研究分野	区 分	課題数(件)	助成費(千円)
一 般 公 募 研 究	理 工 学	A	1	1,200
		B	3	2,400
		計	4	3,600
	農学・生物学	A	1	1,200
		B	2	1,600
		計	3	2,800
	医 学	A	1	1,200
		B	4	3,200
		計	5	4,400
	食品科学	A	3	3,600
		B	6	4,800
		計	9	8,400
全研究分野	A	6	7,200	
	B	15	12,000	
	計	21	19,200	
プロジェクト研究	理工学		6	9,000
	農学・生物学		4	5,600
	医学		6	8,200
	計		16	22,800
財団設立20周年記念助成	計		4	8,000
	総 計		41	50,000

平成21年度助成研究一覧

助成番号	区分	研究題目	氏名	所属
一般公募研究:理工学分野				
0901	B	有機物と懸濁粒子が共存する模擬海水の限外ろ過特性に関する研究	赤松 憲樹	東京大学大学院工学系研究科
0902	B	食塩結晶固結防止剤の作用メカニズム	新藤 齋	中央大学理工学部
0903	B	高い塩素耐性を有する新規な海水淡水化用逆浸透膜の設計開発	松山 秀人	神戸大学大学院工学研究科
0904	A	塩化ナトリウムを利用した高度排水処理を可能にする前処理技術の開発	森 隆昌	名古屋大学大学院工学研究科
一般公募研究:農学・生物学分野				
0905	B	植物の塩ストレス応答に対するオーキシン誘導性転写因子の機能解析	小田 賢司	岡山県生物科学総合研究所遺伝子工学研究部門
0906	B	駿河湾深層水からの海洋微生物の単離とその産生する有用物質の探索	小谷 真也	静岡大学創造科学技術大学院農学部(兼任)
0907	A	耐塩性・耐浸透圧性に関わる酵母の高浸透圧応答経路の制御機構	舘林 和夫	東京大学医科学研究所
一般公募研究:医学分野				
0908	B	抗老化分子SIRT1による尿管オートファジー改善を標的とした新たな食塩感受性高血圧治療戦略の構築	宇津 貴	滋賀医科大学内科学講座
0909	B	小腸Na ⁺ 代謝と栄養吸収におけるタイト結合部の役割	鈴木 裕一	静岡県立大学食品栄養科学部
0910	B	脳におけるプロレニン受容体の発現と塩代謝の中核機構の解析	高橋 和広	東北大学大学院医学系研究科
0911	A	食塩感受性高血圧における新規アンジオテンシン受容体結合因子の病態生理学的意義についての検討	田村 功一	横浜市立大学医学研究科
0912	B	Na ⁺ /H ⁺ 交換輸送体と細胞内Ca ²⁺ センサーNCS-1の相互作用による心肥大形成シグナルの解析	西谷 友重	国立循環器病センター研究所循環分子生理部
一般公募研究:食品科学分野				
0913	B	食肉の熟成に及ぼすミネラル塩の影響の proteoーム解析	石川 伸一	北里大学獣医学部
0914	B	消化管上皮及び粘膜免疫系機能に及ぼす摂取重鉛の役割に関する研究	石塚 敏	北海道大学大学院農学研究院
0915	A	複数のTRPイオンチャネル欠損マウスの作出とその塩味嗜好性の行動学的評価	石丸 喜朗	東京大学大学院農学生命科学研究科
0916	B	Na ⁺ イオン共輸送型—グルタミントランスポーターを介したアミノ酸取り込みによる脂質代謝関連遺伝子発現制御	井上 順	東京大学大学院農学生命科学研究科
0917	A	塩味受容細胞の同定とその味覚応答機能の解析	應本 真	東京大学大学院農学生命科学研究科
0918	B	ミネラル塩類添加食品保存中の香气成分組成変化	小竹佐知子	日本獣医生命科学大学応用生命科学部
0919	B	イカ塩辛における好塩性食中毒原因菌腸炎びブリオの動態と迅速検出法	中口 義次	京都大学東南アジア研究所
0920	B	炭水化物及びたんぱく質食材中の塩類の二元収着拡散	樫場 浩子	東京聖栄大学健康栄養学部
0921	A	モデル魚類の塩味嗜好アッセイ系の薄薬と塩分恒常性調節機構の解析	安岡 顕人	前橋工科大学生物工学科
理工学分野プロジェクト研究:製塩環境における腐食の機構解明と評価技術の開発				
09A1	P	オーステナイト系合金の応力腐食割れ感受性マップ構築とその機構的理解	渡辺 豊	東北大学大学院工学研究科
09A2	P	高濃度塩環境における銅合金の流れ誘起腐食	矢吹 彰広	広島大学大学院工学研究科
09A3	P	製塩プラントにおける腐食管理のための溶存酸素モニタリングに関する研究	八代 仁	岩手大学工学部
09A4	P	電位ノイズ法を用いた濃厚塩化物水溶液中での局部腐食発生の予測技術の開発	井上 博之	大阪府立大学大学院工学研究科
09A5	P	光ファイバAEシステムを用いた製塩装置の局部腐食モニタリングと診断	長 秀雄	青山学院大学理工学部
09A6	P	製塩環境における金属材料腐食挙動の多分割電極法を用いた計測	安住 和久	北海道大学大学院工学研究科

助成 番号	区分	研 究 題 目	氏 名	所 属
農学・生物学分野プロジェクト研究：作物栽培に及ぼす海水の影響				
09B1	P	海水に由来する栄養塩類の農地への自然供給量評価—「塩益」の定量的評価	中西 康博	東京農工大学国際食料情報学部
09B2	P	希釈海水を用いたニホンナシ、リンゴ栽培方法の確立～耐塩性台木の選抜とそのメカニズムの解明～	松本 和浩	弘前大学農学生命科学部付属 生物共生教育研究センター
09B3	P	海水・食塩水を利用した果樹(ナシ)の落葉促進技術の開発～実用的効果の検証と植物体への影響解明～	松本 辰也	新潟県農業総合研究所園芸研究センター
09B4	P	塩ストレスによる植物病原菌の抑制	篠原 信	農業・食品産業技術総合研究機構野菜茶業研究所
医学分野プロジェクト研究：生体におけるK ⁺ 輸送とその制御機構				
09C1	P	腸管でのK ⁺ 吸収・排泄機構とその制御	桑原 厚和	静岡県立大学大学院 / 環境科学研究研究所
09C2	P	腎遠位尿細管K ⁺ チャネルの機能発現制御機構の解明	種本 雅之	東北大学病院腎高血圧内分泌科
09C3	P	腎尿細管のK ⁺ 分泌とK ⁺ チャネル	河原 克雅	北里大学医学部
09C4	P	カリウム過剰摂取によるインシュリン抵抗性改善作用とその作用機序の解明についての研究	佐藤 博亮	福島県立医科大学内科学第三講座
09C5	P	膵β細胞におけるK ^v チャネルによるインシュリン分泌制御機構の解明	出崎 克也	自治医科大学医学部
09C6	P	電位依存性及びカルシウム活性化カリウムチャネルの多様な生理機能と病態的意義	大矢 進	名古屋市立大学大学院薬学研究科
財団設立20周年記念助成：今後10年を見据えた多面的総合的研究—海水・海洋資源の有効利用—				
09S1	S	環境保全に配慮した海水資源の総合的利用技術に関する可能性研究	滝山 博志	東京農工大学大学院生物システム応用科学府
09S2	S	死海の耐塩性ラン藻遺伝子の機能解析とその応用	高倍 昭洋	名城大学総合研究所
09S3	S	野生海藻に寄生する海洋微生物が生産する新規な生理活性物質の探索	水品 善之	神戸学院大学栄養学部
09S4	S	亜鉛摂取不足と塩味嗜好増大を関連づける遺伝子群の網羅的解析	三坂 巧	東京大学大学院農学生命科学研究科

財団だより

I. ソルト・サイエンス・シンポジウム2009

1. 開催目的

目 的：塩に関する学術、その他の情報普及と啓発

対 象 者：食品関連企業関係者、塩事業関係者、大学等研究機関関係者、
栄養士、調理師、給食関係者、一般参加者 300人程度

2. 開催日時・場所

開 催 日：平成21年9月28日(月) 12:30～17:10

開催場所：早稲田大学国際会議場井深大記念ホール

3. テーマと演題

(1)テーマ 塩と生物

(2)演 題

①生物はどのようにして海から陸へ適応したか

講演者：今井 正 自治医科大学名誉教授

座 長：木村 修一 昭和女子大学大学院特任教授

②カリウムの有効性と安全性

講演者：武藤 重明 自治医科大学教授

座 長：今井 正 自治医科大学名誉教授

③海水で生育するマングローブ植物の生態と現状

講演者：北宅 善昭 大阪府立大学大学院教授

座 長：蔵田 憲次 東京大学大学院教授

④水産発酵食品と微生物

講演者：藤井 建夫 東京家政大学特任教授

座 長：藤巻 正生 東京大学名誉教授

II. 第44回評議員会・第48回理事会(平成21年5月25日(月)KKRホテル東京)

平成20年度の事業報告及び収支決算などが審議される予定です。

III. 第21回助成研究発表会(平成21年7月21日(火)都市センターホテル)

平成20年度の助成研究の成果が発表されます。

IV. 「助成研究報告書」等発行(平成21年3月)

平成19年度の助成研究65件の成果をまとめた「助成研究報告書」(3分冊)を発行しました。

編集後記

公益法人制度改革3法及び関連法が2008年12月1日に施行されました。財団は自動的に「特例民法法人」に移行し5年間は基本的に従来どおりの扱いとなりますが、この5年の間に新公益財団法人に移行しなければなりません。財団では2009年度中の新公益財団法人への移行を目途として手続きを進めております。3月の理事会終了後、財務省へ「新制度最初の評議員の選定方法」について認可申請を行ったところ、認可が得られ次第、諸手続きを進め、5月の理事会で承認を得たのち、公益認定委員会へ新公益財団法人への移行申請を行う予定です。いろいろなことがあった2008年度が終わり、あわただしい2009年度を迎えます。どうか来年度も皆様のご支援をお願い申し上げます。

(池)

MARCH / 2009 / No.80

発行日

平成21年3月31日

発行

財団法人ソルト・サイエンス研究財団
The Salt Science Research Foundation

〒106-0032
東京都港区六本木7-15-14 塩業ビル

電話 03-3497-5711

FAX 03-3497-5712

URL <http://www.saltscience.or.jp>